

令和5年度 動物愛護相談センターにおける動物由来感染症調査結果

(令和6年3月31日現在)

1 犬と猫の寄生虫調査

- (1) 検体採取期間 令和5年4月から令和6年3月まで
- (2) 対象及び規模 ①犬6頭(延べ検体数6)、猫34頭(延べ検体数54)の糞便
②犬3頭、猫5頭の心臓及び消化管
- (3) 方法 ①直接塗沫法及び飽和食塩水浮遊法による糞便中の虫卵の同定
②解剖検査による心腔内及び消化管内における虫体確認と同定
※動物愛護相談センターで虫卵及び虫体の同定が困難な場合は、健康安全研究センター微生物部病原細菌研究科寄生虫研究室に同定の協力を依頼する。

(4) 結果

① 糞便検査 (虫卵)

| 対象 (延べ検体数) | 陽性頭数 | 内 訳 | | |
|----------------|------|-----|---------------------|---------------|
| | | 回虫 | イソス ^o ラ属 | 条虫(エキノコックス含む) |
| 犬6頭 (6検体) | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 猫34頭 (54検体) | 6 | 3 | 3 | 瓜実条虫2 |

糞便検査を実施した猫2頭について、それぞれ猫回虫とイソス^oラフェリス、猫回虫と瓜実条虫の重複感染を認めた。

② 解剖検査 (虫体)

すべての個体で虫体は検出されなかった。

2 犬及び猫の SFTS(重症熱性血小板減少症候群)ウイルス遺伝子モニタリング調査

- (1) 検体採取期間 令和5年4月から令和6年3月まで
- (2) 対象及び規模 犬及び猫の口腔拭い液 犬2頭、猫53頭
- (3) 方法 リアルタイムPCR法によるウイルス遺伝子の検出
- (4) 検査機関 健康安全研究センター微生物部ウイルス研究科
- (5) 結果 すべての検体でSFTSウイルス遺伝子は検出されなかった。